



関東大震災時の朝鮮人虐殺事件一周年をまもなく迎える一九二四年八月二八日付の『東京朝日新聞』夕刊は、朝鮮人虐殺事件に対する政府の態度を厳しく批判して「鮮人事件に至ては、忘すられんする段か、兎もすれば暗に葬つてしまおうとする。いよいよ以て恥の上塗である」と言つた。まさにこの批判のようには政府は、下は東京・横浜の警察官や、上は内務省警保局長に至るまで、朝鮮人が震災時に暴動を起ししたと誤認した結果、朝鮮人虐殺事件を引き起こした責任を回避するための事件の事後処理の実施に汲々としていた。朝鮮人暴動はないことに気づいた山本権兵衛内閣は、一九二三年九月五日に布告した内閣告諭で民衆の朝鮮人迫害を抑えようとしたが、その理由としては迫害が「日鮮同化の根本主義には背戻するのみならず、又諸外国に報ぜられて決して好ましきことに非ず」と述べた。つまり、山本内閣は朝鮮人に對する迫害が朝鮮人の同化、つまり皇國臣民化の妨げとなつて植民地支配の動搖を引き起こし、かつ日本が国際的の批判を浴びることを恐れたのである。

朝鮮人虐殺事件に対する裁判は行われた。しかしこの裁判は内閣のこのような政治的思惑に基づいてなされた。裁判所が言い渡した刑罰は、警察署に拘束されている朝鮮人、または警察署に保護を求めて來ていた朝鮮人を虐殺する目的で、警察署を襲撃した被告に対して重く、警察署にいなかつた朝鮮人を殺害した被告に対しては軽かつた。つまり、裁判所は朝鮮人を虐殺したことよりも、警察署襲撃を反国家的行動と見てより重視したのである。警察署にいなかつた朝鮮人を殺害した日本人に對する措置は、日本人に軽くとも、ともかく刑罰を科して朝鮮人を慰撫し、朝鮮人の植民地支配に對する反感や抵抗が起つたのを防止することが狙いであって、朝鮮人の人権尊重を目的としたものではなかつた。日本政府の朝鮮人虐殺事件の事後処理政策を研究する上で本書所収の判決書は重要な意味をもつ。

山田昭次（日本近現代史研究者）

解説 関東大震災時における群馬県・藤岡での朝鮮人虐殺事件とその裁判について

解説 埼玉県・群馬県関東大震災時朝鮮人犠牲者追悼碑文  
（山田昭次）

（一） 藤岡警察署における朝鮮人虐殺事件の発生

（二） 「流言蜚語の流入」  
関東大震災後、朝鮮人が井戸に毒を投入したり、放火をしているとの「流言蜚語」の波は直ちに群馬県内にも流れました。群馬県も当時の藤岡町において、「七名の罪なき朝鮮人が民衆の手によって虐殺される」という事件が発生している。再びこのような悲劇を繰り返さないため、事件の概略と問題点を明らかにしたい。

（三） 藤岡警察署による朝鮮人虐殺事件の発生

（四） 熊谷事件

（五） 本庄事件

（六） 妻沼事件

（七） 前橋地裁事件

（八） 倉賀野事件

（九） 檢束事件

（十） 群馬県関連

（十一） 解説（猪上輝雄／山田昭次）

（十二） 一 藤岡事件

（十三） 二 神保原事件

（十四） 三 寄居事件

（十五） 四 熊谷事件

（十六） 五 本庄事件

（十七） 六 妻沼事件

（十八） 七 前橋地裁事件

（十九） 八 倉賀野事件

（二十） 九 檢束事件

（二十一） 十 群馬県関連

（二十二） 十一 解説（猪上輝雄／山田昭次）

（二十三） 十二 一 藤岡事件

（二十四） 十三 二 神保原事件

（二十五） 十四 三 寄居事件

（二十六） 十五 四 熊谷事件

（二十七） 十六 五 本庄事件

（二十八） 十七 六 妻沼事件

（二十九） 十八 七 前橋地裁事件

（三十） 十九 八 倉賀野事件

（三十一） 二十 九 檢束事件

（三十二） 二十一 一 藤岡事件

（三十三） 二十二 二 神保原事件

（三十四） 二十三 三 寄居事件

（三十五） 二十四 四 熊谷事件

（三十六） 二十五 五 本庄事件

（三十七） 二十六 六 妻沼事件

（三十八） 二十七 七 前橋地裁事件

（三十九） 二十八 八 倉賀野事件

（四十） 二十九 九 檢束事件

（四十一） 三十 一 藤岡事件

（四十二） 三十一 二 神保原事件

（四十三） 三十二 三 寄居事件

（四十四） 三十三 四 熊谷事件

（四十五） 三十四 五 本庄事件

（四十六） 三十五 六 妻沼事件

（四十七） 三十六 七 前橋地裁事件

（四十八） 三十七 八 倉賀野事件

（四十九） 三十八 九 檢束事件

（五十） 三十九 一 藤岡事件

（五十一） 四十 二 神保原事件

（五十二） 四十一 三 寄居事件

（五十三） 四十二 四 熊谷事件

（五十四） 四十三 五 本庄事件

（五十五） 四十四 六 妻沼事件

（五十六） 四十五 七 前橋地裁事件

（五十七） 四十六 八 倉賀野事件

（五十八） 四十七 九 檢束事件

（五十九） 四十八 一 藤岡事件

（六十） 四十九 二 神保原事件

（六十一） 五十 三 寄居事件

（六十二） 五十二 四 熊谷事件

（六十三） 五十三 五 本庄事件

（六十四） 五十四 六 妻沼事件

（六十五） 五十五 七 前橋地裁事件

（六十六） 五十六 八 倉賀野事件

（六十七） 五十七 九 檢束事件

（六十八） 五十八 一 藤岡事件

（六十九） 五十九 二 神保原事件

（七十） 六十 三 寄居事件

（七十一） 七十一 四 熊谷事件

（七十二） 七十二 五 本庄事件

（七十三） 七十三 六 妻沼事件

（七十四） 七十四 七 前橋地裁事件

（七十五） 七十五 八 倉賀野事件

（七十六） 七十六 九 檢束事件

（七十七） 七十七 一 藤岡事件

（七十八） 七十八 二 神保原事件

（七十九） 七十九 三 寄居事件

（八十） 八十 四 熊谷事件

（八十一） 八十一 五 本庄事件

（八十二） 八十二 六 妻沼事件

（八十三） 八十三 七 前橋地裁事件

（八十四） 八十四 八 倉賀野事件

（八十五） 八十五 九 檢束事件

（八十六） 八十六 一 藤岡事件

（八十七） 八十七 二 神保原事件

（八十八） 八十八 三 寄居事件

（八十九） 八十九 四 熊谷事件

（九十） 九十 五 本庄事件

（九十一） 九十一 六 妻沼事件

（九十二） 九十二 七 前橋地裁事件

（九十三） 九十三 八 倉賀野事件

（九十四） 九十四 九 檢束事件

（九十五） 九十五 一 藤岡事件

（九十六） 九十六 二 神保原事件

（九十七） 九十七 三 寄居事件

（九十八） 九十八 四 熊谷事件

（九十九） 九十九 五 本庄事件

（一百） 一百 六 妻沼事件

（一百一） 一百一 七 前橋地裁事件

（一百二） 一百二 八 倉賀野事件

（一百三） 一百三 九 檢束事件

（一百四） 一百四 一 藤岡事件

（一百五） 一百五 二 神保原事件

（一百六） 一百六 三 寄居事件

（一百七） 一百七 四 熊谷事件

（一百八） 一百八 五 本庄事件

（一百九） 一百九 六 妻沼事件

（一百二十） 一百二十 七 前橋地裁事件

（一百二十一） 一百二十一 八 倉賀野事件

（一百二十二） 一百二十二 九 檢束事件

（一百二十三） 一百二十三 一 藤岡事件

（一百二十四） 一百二十四 二 神保原事件

（一百二十五） 一百二十五 三 寄居事件

（一百二十六） 一百二十六 四 熊谷事件

（一百二十七） 一百二十七 五 本庄事件

（一百二十八） 一百二十八 六 妻沼事件

（一百二十九） 一百二十九 七 前橋地裁事件

（一百三十） 一百三十 八 倉賀野事件

（一百三十一） 一百三十一 九 檢束事件

（一百三十二） 一百三十二 一 藤岡事件

（一百三十三） 一百三十三 二 神保原事件

（一百三十四） 一百三十四 三 寄居事件

（一百三十五） 一百三十五 四 熊谷事件

（一百三十六） 一百三十六 五 本庄事件

（一百三十七） 一百三十七 六 妻沼事件

（一百三十八） 一百三十八 七 前橋地裁事件

（一百三十九） 一百三十九 八 倉賀野事件

（一百四十） 一百四十 九 檢束事件

（一百四十一） 一百四十一 一 藤岡事件

（一百四十二） 一百四十二 二 神保原事件

（一百四十三） 一百四十三 三 寄居事件

（一百四十四） 一百四十四 四 熊谷事件

（一百四十五） 一百四十五 五 本庄事件

（一百四十六） 一百四十六 六 妻沼事件

（一百四十七） 一百四十七 七 前橋地裁事件

（一百四十八） 一百四十八 八 倉賀野事件

（一百四十九） 一百四十九 九 檢束事件

（一百五十） 一百五十 一 藤岡事件

（一百五十一） 一百五十一 二 神保原事件

（一百五十二） 一百五十二 三 寄居事件

（一百五十三） 一百五十三 四 熊谷事件

（一百五十四） 一百五十四 五 本庄事件

（一百五十五） 一百五十五 六 妻沼事件

（一百五十六） 一百五十六 七 前橋地裁事件

（一百五十七） 一百五十七 八 倉賀野事件

（一百五十八） 一百五十八 九 檢束事件

（一百五十九） 一百五十九 一 藤岡事件